

学術研究賞・国内部門

氏名 竹内 實
(たけうちみのる)

生年月日 1923年6月12日(69歳)

国籍 日本



プロフィール

中国山東省張店に生まれた竹内氏は、“満州国”新京(現在の吉林省長春)で十代を過ごした。この体験は、氏の堪能な中国語だけでなく、後の研究者としての基本姿勢を形作った。1949年に京都大学文学部中国文学科を卒業後、東京大学文学部大学院を修了して、中国研究所に勤務。中国語教育にも関わる一方、現代中国文学の紹介に努める。その後、10年余にわたり東京都立大学の教壇に立つが、この間、野間宏らと中国を訪問し、毛沢東との会見記を発表、また武田泰淳とともに『毛沢東 その詩と人生』を刊行し、それまでにない人間的な側面に迫って注目された。1973年に京都大学人文科学研究所に招かれ、新設の「現代中国」部門を担当、共同研究を主宰、のちに所長を務める。同大退官後、立命館大学国際関係学部新設に参加、学部長を経て、現在同学部教授の職にある。

竹内氏は、現代中国を従来の政治、経済といった社会科学的視点に加えて文学、思想、歴史学などの視座をも抱摂した総合的な文脈の中で解析するという独自の現代中国論で知られる。氏の提出してきた現代中国理解の概念は、日本のみならず中国、香港、台湾にも多大な影響を与え、その幅広い国際交流から欧米においても高い評価を受けている。また、中国文学研究、毛沢東、魯迅研究の碩学でもあり、著書も多い。中国の風土と世界像を生活面から描き出した『茶館』は中国語に翻訳され、“中国を理解し愛する竹内氏は、半ば中国人である”と賛辞を送られた。

主な著作

『毛沢東 その詩と人生』(共著)1965 『日本人にとっての中国像』1966

『中国の思想——伝統と現代』1967 『毛沢東集』(監修)1969~71

『現代中国の文学——展開と理論』『毛沢東と中国共産党』1972

『茶館——中国の風土と世界像』1974 『中国への視角』1975

『同時代としての中国』『紀行 日本の中の中国』1976 『魯迅遠景』1978

『友好は易く理解は難し』1980 『中国喫茶詩話』1982

『中国生活誌——黄土高原の衣食住』1984 『中国文学最新事情』(共編),

『現代中国の展開』1987 『転形期の中国』京都, 1988 『毛沢東』1989

岩波講座現代中国第5巻『文学芸術の新潮流』(編著), 『愛のうた——中華愛誦詩選』1990

(出版地のないものは東京にて出版)